

平成31年度事業報告書

(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

学校法人 上宮学園

I.法人の概要

1.建学の精神

本学園の建学の精神は法然上人の理想を実現することであり、したがってその指導原理は上人の仏教精神にあることは言を俟たない。学園に関係するものは当然その本源を尋ねてひとえに法然上人に依るべきで、本学園が法然上人を学校祖と仰ぐゆえんである。学園の歴史はわずか120年であるが、その120年に至るまでの歴史は遥かに長いのである。

法然上人の理想とするところは校歌『月影』にこめられている。

「月影の いたらぬ里は なけれども 眺むる人の 心にぞ 澄む」

これは校祖法然上人の御作で、仏様の慈愛について述べておられるものである。仏の慈愛はさながら月光に似て、人の世のすみずみまでを照らす。しかしながら、月明かりを良いものだと感じ取ることのできる人にだけ月光の良さがわかるように、ああこれが仏の慈愛なのだ、と感じ取ることのできる人にだけ、慈悲の心は通じる。仏恩とはそのようなもの、と説いておられる。本学園ではこの月影の歌を校歌にしており、卒業生は校名一つないこの歌を校歌としている母校に、限りない母校愛と誇りを感じ巢立つのである。

この精神を具現化するために定められたものが、校訓であり、学順である。

校訓「正思明行」～正しく考え、明るく行動する～

何気ない言葉のようですが、邪悪なことを考えていて、立派なことがやれるわけがない。小さなことにくよくよして、大事業が達成できるわけがない。要は心のもちかた。他者が見て、この人にはついて行けると思われるような人物は、いつも考えていることが清く正しく、その言動もおのずと清明で、正々堂々としているものです。生徒諸君にそういう立派な人物になれという校祖の思いが、この四文字に込められている。

また上宮には昔から「学順」と呼ぶ教訓が存在する。

「一に掃除、二に勤行、三に学問」。この「掃除」はしばしば誤解されるのであるが、仏道ではもつと哲学的な意味をもち、俗世を浄土のごとく掃き清め、もって俗念を断つ。『往生要集』にもある、穢土を厭い浄土を求める、その心がけが第一で、つぎに己が身の力の限り努力して勉学に勤しめば、学問は自ずから身に備わり、その真価を発揮するという意味です。

以上のことはいずれも仏の叡智に根ざすものである。現代のようなコンピュータ万能の時代でも、いや、むしろ、このようなブラック・ボックスの伴うテクノロジーが人智を凌駕する時代に生きるからこそ、この叡智は大事なのである。いたずらに俗世の成功を求めず、人間ほんらいの生き方と「知の真価」を求める。上宮学園では法然上人のこの人道と仏の慈愛を多くの若者に分け与えて、120年の伝統を経てもなお脈々と受け継がれている。

2.法人の沿革

上宮高等学校は、明治23年（1890）浄土宗を母胎として創立された。以来120年以上の長い歴史を刻み、幾多の卒業生を送り出してきた。大阪で最も古い学校のひとつとして、永い歴史の中で培われてきた伝統を大切に、きめの細かい教育を推進している。

- 明治23年（1890年）大阪大教会支校を生玉大宝寺に開く
- 明治34年（1901年）学制変更により修業年限4年を5年に変更
- 明治39年（1906年）中学校と同等の認定
- 明治45年（1912年）財団法人上宮中学校設立許可
- 昭和4年（1929年）鉄筋本館竣工
- 昭和10年（1935年）定員1250名認可 鉄筋新校舎の建設案成る
- 昭和14年（1939年）新校舎（現2・3・4号館）竣工
- 昭和22年（1947年）新制上宮中学校発足
- 昭和23年（1948年）新制上宮高等学校発足
- 昭和26年（1951年）学校法人上宮学園へ組織変更認可
- 昭和36年（1961年）校祖750年遠忌式
- 昭和38年（1963年）高等学校志願者5259名に達す 5号館竣工
- 昭和42年（1967年）中学校の募集停止 太子町鉄骨校舎着工
- 昭和44年（1969年）太子町校舎高1授業開始
- 昭和49年（1974年）高2 2コース制実施
- 昭和54年（1979年）太子町鉄筋校舎ならびに合宿所竣工式
- 昭和56年（1981年）総合体育館竣工式 90周年記念式
- 昭和59年（1984年）上宮高等学校6号館竣工
- 昭和60年（1985年）上宮中学校復活開校（於、太子町）
上宮中学校体育館竣工、太子町学舎体育館竣工
- 昭和63年（1988年）上宮高等学校太子町学舎開設
- 平成1年（1989年）上宮高等学校太子町学舎校舎竣工
- 平成2年（1990年）創立100周年記念式典
- 平成3年（1991年）上宮高等学校太子町学舎が上宮太子高等学校として独立
- 平成5年（1993年）上宮中学校が上宮太子中学校へ変更
上宮中学校開校（於、天王寺）
上宮高等学校硬式野球部選抜野球大会初優勝
- 平成22年（2010年）上宮学園創立120周年記念式典
- 平成23年（2011年）校祖800年大遠忌 上宮中学校・高等学校、上宮太子中学校男女共学化
- 平成24年（2012年）上宮太子高等学校男女共学化
- 平成26年（2014年）上宮高等学校3年 平岡卓
冬季オリンピックスノーボードハーフパイプ銅メダル受賞式典
- 平成30年（2018年）上宮中学校と上宮太子中学校が合併し、上宮学園中学校へ校名変更
- 令和元年（2019年）上宮学園中学校・上宮高等学校 新校舎へ移転

3. 設置学校（所在地・コース等）

i 上宮高等学校 〒543-0037 大阪市天王寺区上之宮町3番16号
全日制 普通科 パワーコース・英数コース・プレップコース

ii 上宮太子高等学校 〒583-0995 大阪府南河内郡太子町太子1053
全日制 普通科 3カ年特進コース・3カ年総合進学コース

iii 上宮学園中学校 〒543-0037 大阪市天王寺区上之宮町3番16号
特進コース・Gコース・アップコース

iv 上宮太子中学校 〒583-0995 大阪府南河内郡太子町太子1053
特進選抜コース

4. 校地・校舎面積

名 称	校地面積 m ²	校舎面積 m ²
上宮学園中学校・上宮高等学校	47,934	22,906
上宮太子中学校・高等学校	30,338	12,436
合 計	78,272	35,342

5. 入学定員

名 称	学則定員（各3学年合計）
上宮高等学校	2,520
上宮太子高等学校	840
上宮学園中学校	480
上宮太子中学校	240
合 計	4,080

6. 生徒数・学級数(令和元年5月1日現在)

名 称	学年	生徒数	学級数
上宮高等学校	1年	572	16
	2年	647	18
	3年	663	19
上宮太子高等学校	1年	188	5
	2年	190	6
	3年	210	6
上宮学園中学校	1年	101	3
	2年	91	3
	3年	77	3
上宮太子中学校	1年	0	0
	2年	0	0
	3年	29	1
合計		2,768	80

7. 役員・評議員 平成31年4月1日現在

i 役員（定員 理事：7名、監事：2名）

理事7名（うち、理事長1名、理事6名）監事2名

理事長 田中裕史

理事 山縣真平（上宮中学校高等学校長）

寺澤久弥（上宮太子中学校高等学校長）

甲斐龍二（上宮学園法人事務局長）

井桁雄弘（評議員互選）

豊岡鎌尔（宗教法人浄土宗責任役員）

山北光彦（浄土宗僧侶）

監 事 小笹憲雄・毛利虎之助

ii 評議員（定員15名）

評議員15名（うち、理事兼任7名）

神田眞晃（卒業生） 川中光教（浄土宗僧侶）

水谷川源昇（学識経験者） 横倉廉幸（卒業生） 殿井鉄夫（学識経験者）

松井保（法人職員） 原田和成（法人職員） 佐々木裕司(学識経験者)

8. 教職員

教職員数	教諭	常勤講師	非常勤講師	事務職員	合計
上宮高等学校	80	8	58	22	168
上宮学園中学校	22	1	7	2	32
上宮太子高等学校	34	2	27	9	72
上宮太子中学校	6	0	4	1	11
合計	142	11	96	34	283

II.事業の概要

平成 28 年 7 月より田中裕史理事長・学園長が就任し、学園の発展向上のために、安井良道前理事長・学園長の意思を継承し、「三本の柱」を掲げる。

一は教育力の向上。本学園の建学の精神である「正思明行」を礎として学力だけでなく、幅広い知識と教養をもち、自ら努力できる人物を育成し、またさらに、共生の精神と自立できる力を養い、世界的に活躍できる人物を育成する。教授法の改善を推進し、より質の高い教育を実践、学校満足度の向上をはかる。

二は健全な財政の構築。創立 120 有余年の歴史と伝統を基盤として、さらなる社会的信頼獲得のための運営をすすめ、確固たる学園ブランドを確立する。令和 2 年、創立 130 周年を迎えるにあたり、学園の整備計画の一つとして、上宮中学校・高等学校新校舎建設を決定、基本設計の段階に至る。そのための整備費等の財務計画を策定し、強固な財政基盤を確立する。

三は民主的な運営。競争力を持った教育環境の整備と社会変化に対応できる組織力の確立を目指す。理事長・校長の指導の下、教職員の意見を取り入れながら、各部署が連携して学校運営に取り組む。また、保護者会・同窓会・教育後援会等と学園とが連携し、社会に貢献できる事業を企画し推進する。

以上、基本精神「三本の柱」を中心に、学園の維持・発展のための事業運営に今後に向けても邁進する次第である。

1. 法人

令和元年度 第 1 回理事・評議員会

日時 令和元年 5 月 30 日 (木)

会場 上宮学園中学校・上宮高等学校 北応接室

議案第 1 号 平成 30 年度事業報告について

議案第 2 号 平成 30 年度決算 (案) について

議案第 3 号 令和元年度予算 (案) について

議案第 4 号 その他について

令和元年度 第 2 回理事・評議員会

日時 令和元年 7 月 25 日 (木)

会場 上宮学園中学校・上宮高等学校 北応接室

議案第 1 号 校舎移転による事務所所在地の変更に伴う登記及び寄附行為の変更について

議案第 2 号 その他について

令和元年度 第3回理事・評議員会

日時 令和元年12月26日(木)

会場 理事会 上宮学園中学校・上宮高等学校 法人理事室
評議員会 上宮学園中学校・上宮高等学校 保護者会室

議案第1号 理事補充について

議案第2号 寄附行為の変更について

議案第3号 学則の変更について

議案第4号 令和元年度中間報告(財務面・教務面)について

議案第5号 130周年記念事業追加融資について

2.上宮高等学校

i 執行部関係【上宮学園中学共】(平成31年度)

校長	山縣真平	副校長	殿井鉄夫
高校教頭	栗栖有文	中学教頭	末金和夫
高校教務部長	西岡信教	中学教務部長	上田達哉
			(途中から末金和夫教頭が兼務)
生活指導部長	伊地田 龍也	進路指導部長	畑中 広
入試対策部長	北村吉隆		

II 広報関係【上宮学園中学共】(平成31年度)

○入試結果

志願者数 2,190名、受験者数 2,168名

合格者数 2,038名(専願 408名・併願 1,630名)

入学者数 595名

*2019年度入試結果

志願者数 2,221名、受験者数 2,213名

合格者数 2,030名(専願 315名・併願 1,715名)

入学者数 499名

○入試説明会

自校実施4回で2,788組の受験希望者に参加いただき、

前年度参加者数2,574組から214組の増となりました。

各回とも、在校生が入口での資料配布や廊下での案内などを担当したことにより、

資料等で伝える事が難しい校風や校内での教師と生徒間の雰囲気も身近に感じていただけたと思います。

○塾対象説明会

シェラトン都ホテル大阪での開催。

前年と同様に9月の実施で331名/292塾、ご参加いただきました。

(前年度344名/310塾)

○私学展

天満橋 OMM ビルにて8月17日(土)・18日(日)の二日間開催。

ブース相談件数は初日が185名(前年度188名)

2日目が202名(前年度179名)と前年度とほぼ変わらない相談件数でした。

男女の比率もほぼ半々でした。

(2021年度の私学展の日程、会場等の変更の発表あり。)

担当人員は前年度と同じく15名。

(メインブース3名、別会場ブース5名、集団説明会場2名、会場周辺等5名で対応。)

2020年度中高入試対策部・課題

入試に関する説明会等、入試対策部外の先生のご助力もあり成り立っております。

各説明会の人員調整だけでなく、2021年度はコロナ禍での学校独自の方向性等を共有して臨む準備が必要に思われます。

特に2021年度入試については、今までの入学目安を当てはめることが難しく、熟慮を重ねる必要があります。

また、コロナウイルスとの共存を見越し、説明会のスマート化、リモート化への早い対応が問われると思います。

Ⅲ. 進路関係

1. 大学等進学状況の概況

平成 31 年度卒業生（共学 7 期生）は 660 名（昨年度 663 名）。学年全体の現役合格率（大学・短期大学・専門学校合格）は 91.0%（昨年 89.9%、一昨年 90.7%）で 2 年連続の上昇。

*平成 31 年度は、同 28 年度から文科省の進める「大学入学定員管理」の 4 年目にあたり、定員管理はやや落ち着きをみせ、各大学の競争倍率も下がってきたが、過去 2 年間の私立大学入試の厳しさの影響で、本年度も「安全志向」が続いた。

平成 31 年度卒業生の進学状況の概況は以下の通り。

- ①安全志向により早期の受験と、一人当たりの併願数が増えた結果、本校全体の現役生徒の 4 年制大学進学率は昨年を上回った。
- ②国公立大学の現役合格者は 28 名、過年度生を合わせた合格者は 41 名となり、平成 26 年以来 5 年ぶりに 40 人を越えた。
- ③過年度生の健闘で旧帝大等の難関国公立大学合格者数が増加。
(大阪大学・神戸大学各 2 名、北海道大学・九州大学各 1 名、福井大学医学部 2 名 等)
- ④連携・指定校制推薦入試合格者の割合は、プレップ・一貫プレップ生全体 35.9%であった（昨年度 40.1%）。
- ⑤私立大学入試の難化と安全志向から、本校生徒の難関・中堅私立大学受験者が減少し、それに伴いそれらの合格者数が昨年に続いて減少した。
- ⑥専門学校への進学者が減少。
- ⑦就職者が減少。

平成 31 年度卒業生の最終進学等状況					
卒業生	4 年制大学	短期大学	専門学校	就職	その他*
660	528	16	36	3	77
割合	80.0%	2.4%	5.5%	0.5%	11.7%

*「就職者」内訳：皇宮警察・警視庁・海上自衛隊

*「その他」は進学準備・留学準備等（大学等に合格したが入学しなかった生徒も含む）

平成 30 年度卒業生の最終進学等状況					
卒業生	4 年制大学	短期大学	専門学校	就職	その他*
663	517	17	43	8	78
割合	78.0%	2.6%	6.5%	1.2%	11.8%

*「就職者」内訳：大阪府警察・大阪市消防局・入国管理局・大阪府公務員・
自衛隊（海上・航空・曹候補生）・家事手伝い

*「その他」は進学準備・留学準備等（大学等に合格したが入学しなかった生徒も含む）

2. 大学別合格者について

1) 国公立大学合格者 41 名 (昨年度 39 名) *現役・過年度生を合わせた大学別実人数

①国立大 24 名 (うち現役 15 名) ②公立大 17 名 (うち現役 13 名)

【平成 29 年度～31 年度の国公立大学合格状況 比較】

*現役・過年度生を合わせた大学別合格者実人数

国公立大学合格者								
H31 年度			H30 年度			H29 年度		
			卒業生数 663 名			卒業生数 676 名		
順位	大学名	人数	順位	大学名	人数	順位	大学名	人数
1	和歌山大	4	1	和歌山大	9	1	和歌山大	8
	大阪市立大	4	2	大阪府立大	7	2	大阪市立大	5
3	大阪府立大	3	3	大阪教育大	2	3	大阪大	2
4	大阪大	2		岡山県立大	2		奈良女子大	2
5	神戸大	2	5	大阪大	1		大阪府立大	2
	福井大 (医)	2		九州大	1	6	筑波大	1
	鳥取大	2		神戸大	1		東京工業大	1
8	北海道大	1		奈良女子大	1		大阪教育大	1
	東京農工大	1		奈良教育大	1		愛媛大	1
	九州大 等	1		信州大 等	1		京都府立大 等	1
	合計実人数	41		合計実人数	39		合計実人数	33
	うち現役実人数	28		うち現役実人数	35		うち現役実人数	28
	国公立型クラス現役生数	126		国公立型クラス現役生数	147		国公立型クラス現役生数	140

2) 私立 4 年制大学 大学別合格者実人数 794 名 (うち現役 705 名) 卒業生 660 名

* (昨年度 767 名 うち現役 664 名) 卒業生 663 名

【平成 29 年度から平成 31 年度の私立大学現役合格者 Best20 過年度比較】

私立大学現役合格者 *現役生のみで大学別合格実人数で比較								
H31 年度			H30 年度			H29 年度		
			卒業生数 663 名			卒業生数 676 名		
順位	大学名	人数	順位	大学名	人数	順位	大学名	人数
1	近畿大	60 人	1	近畿大	64 人	1	近畿大	68 人
2	摂南大	52	2	摂南大	57	2	摂南大	63
3	関西大	43	3	関西大	48	3	関西大	56
4	龍谷大	38	4	龍谷大	40	4	龍谷大	54
5	追手門学院大	26	5	大阪工業大	28	5	桃山学院大	30
6	大阪経済大	24	6	追手門学院大	22	6	大阪工業大	22
7	桃山学院大	21	7	桃山学院大	21	7	大阪経済大	21

8	甲南女子大	19	8	同志社大	19	8	畿央大	19
	帝塚山大	19	9	大阪経済大	15	9	甲南大	17
10	大阪工業大	18		武庫川女子大	15	10	同志社大	16
	関西外国語大	18	11	甲南大	14	11	京都産業大	15
12	大阪産業大	17		帝塚山大	14		関西学院大	15
13	甲南大	17	13	関西外国語大	12	13	立命館大	14
14	京都産業大	16	14	大阪大谷大	11		追手門学院大	14
15	武庫川女子大	14		四天王寺大	11	15	大阪電気通信大	13
16	大阪電気通信大	13		甲南女子大	11		関西外国語大	13
17	同志社女子大	12	17	同志社女子大	10		武庫川女子大	13
	阪南大	12		関西外国語短期大	10	18	同志社女子大	11
	畿央大	12	19	和歌山大	9	19	大阪産業大	10
20	大阪芸術大	11		立命館大	9		大阪樟蔭女子大	10
	四天王寺大・大和大	11		関西学院大 等	9		阪南大	10
	合計実人数	705		合計実人数	664		合計実人数	694

3) 私立短期大学合格者 31名 (うち現役 28名)

私立短期大学合格者 *合格者であり進学者ではない		
H31年度	H30年度	H29年度
31	28	11
うち現役 28	26	11

4) 専門学校合格者 46名 (うち現役 44)

専門学校合格者 *合格者であり進学者ではない		
H31年度	H30年度	H29年度
46	50	60
うち現役 44	45	56

3. 進学・勉学に関する進路指導部の主な事業報告

- 1) 通常の補講習とは別に、各学年の希望生徒対象に有料で実施している「Uゼミ」が開講6年目となった。平成31年度4月からの新規事業として中学3年生対象の「高校進学準備講座」(英語・数学)を、本校卒業生による個別指導型でスタートした。6名の卒業生を講師として採用した。
- 2) Uゼミの「英検合格講座」は中1から高3までの希望者を対象として、土曜日放課後に通年で3期に分けて開講している。年々受講者を増やしており、平成31年度の延受講者合計は425名であった。
- 3) 「オンライン英会話」は、中1から高3までの希望者を対象として、平日放課後に有料で通

年開講。ネット回線を使って英会話および英検対策のマンツーマン授業を行っている。新校舎に移ってから設備が向上し、ネット接続のトラブルが減少した。平成31年度の受講者は88名であった。本事業は「㈱スクール TOMAS」が行っている。

4) 本校では従来から「連携・指定校制推薦入試」に合格した高3生徒全員に「大学入学前特別プログラム」を独自で実施している。平成31年度は以下のプログラムを実施した。

①「連携大学の先生による入学前特別講義」:

連携協定を結んでいる甲南大学経済学部の教授2名による「大学での学びについての講義」と「レポートの書き方の実践演習と添削指導」を2日間の午前中で実施した。

②「エンパワーメントプログラム」:

これは㈱ISAの提供するプログラムで、グループワークと英語使用100%の授業、またプレゼンテーション等を組み合わせた3日間のアクティブラーニング型演習である。

本プログラムは文科省の提示する「学力の3要素」の「知識・技能」と、それに基づいた「思考力・判断力・表現力」、および「主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度」を同時に育成するものである。

本校は平成29年度からこのプログラムを導入し、平成30年度から高3の「連携・指定校制推薦入試」合格者の受講を全員必須とした。また、上宮太子高校からの参加希望者も受け入れている。平成30年度と31年度はそれぞれ上宮太子高校の生徒1名を受け入れた。

本年度は14か国19名の国際学生と外国人ファシリテーター2名が来校して、本校生徒の指導にあたった。また、国際学生のホームステイ受け入れ家庭を募集し、4家庭で5名の受け入れがあった。

IV 施設整備関係

本年度は新校舎竣工に伴い、校舎移転作業及び残存校舎の確定改修工事を除く、残存校舎維持確保を中心に補修工事と産業廃棄物の処理等を中心に実施致しました。

また、新校舎竣工・北キャンパス解体工事開始に伴いまして倉庫スペース確保の為、総合体育館地下倉庫改修工事を実施致しました。

PCB処理につきましては、本年度処理登録を完了し、高濃度PCBを含む高圧進相コンデンサのみ廃棄致しました。

1ー総合体育館外壁補修工事	20,000,000円
2ー総合体育館地下中2階倉庫改装工事	3,045,600円
3ー総合体育館プール前体育倉庫増設工事	2,116,800円
4ー総合体育館南・北シャワー室修繕工事	655,400円

合計金額 25,817,800円

5ーPCB廃棄処理費用(高圧進相コンデンサ) 645,000円

V 教務関係

①学校計画の策定

平成 31 年度学校計画を策定し、「建学の精神」「教育目標」「平成 30 年度を振り返って」「中期目標」「今年度目標」の項目に分け、上宮学園中学校・高等学校の学校方針を明確化した。この学校計画をもとに各学年・各分掌・各教科が自らの部門で必要とされる重点目標を策定して学校評価に結びつけ、さらに各教員は学校計画と学校評価に関連して個人目標シートに結びつけた。学校評価の充実には組織力の向上を、個人目標シートの充実には教育力の向上を目指している。

②シラバスの策定

平成 31 年度も例年通り、教科およびコースのシラバスを策定した。シラバスは生徒・保護者および外部に対して公表するものであり、本校の教育内容はホームページにあげて公開と広報を行った。

③通年実施をする補講習の体系化

平成 31 年度は、教科会、学年会、主任会を経て通年実施の補講習を一覧表にまとめた。年初に全教員に明らかにすることで、1 年間を通して授業に準じた形式で体系的に行い、授業の補完が達成できるようした。

④いじめ防止基本方針

いじめ対策委員会は継続して行っている。いじめ防止基本方針は、平成 26 年 3 月 20 日公布、4 月 1 日施行であり、ホームページに記載している。

【教学関係】

新校舎への移転に伴い、様々なトラブルが予想されたが、思いの外、大きなトラブルもなく、各教室等へ導入された映像システムを利用した授業も徐々に浸透してきており、新時代の授業形態に向けてまずは順調な滑り出しであると思える。

新型コロナウイルス感染症対応のために 3 月 2 日から臨時休業の措置をとった。それに伴い、学年末考査を中止し、学業成績は、1、2 学期成績から算出し、3 学期分の平常点を加味したものとした。入試に活用される「JAPANE-Portfolio」に対応すべく、「上宮ルーブリック」の活用を継続しており、また、各教科におけるルーブリック作成に着手している。

広報戦略係においては、外部に対して学園創立 130 周年を機に新たな広報活動の充実、塾本部への訪問、シンガポール・バンコクの日本人学校への訪問を実施した。

e ラーニング係・ID 係においては、新校舎における ICT の有効利用、新しい時代の教育環境の構築に向けて、各種調査・研究・実践を継続している。

教育相談係や特別支援教育コーディネーターを置き、登校に不安のある生徒や、配慮を要する生徒についての生徒本人や保護者、担任等からの相談に応じて、ケア委員会を開催するなど、適切な対応を積極的に行った。

高大連携入試・指定校推薦入試合格者に対して、外国人留学生との交流を通して、自分の将来を考えるきっかけになるように、エンパワーメントプログラムを実施した。参加者は 197 名であった。

【大学等受験対策】

校内予備校の取り組みとして、1年生の2、3学期に大学合格基礎講座、2年生の1、2学期に大学合格準備講座、2年生の3学期と3年生の1、2学期に大学合格講座を実施した。

これらは、本校勤務で予備校との兼任の講師と別に採用した予備校講師が、平日17時15分から2時限（1コマ70分）で実施しており、生徒の成績向上・進路保障にも大きく寄与していると思われる。保護者からも安価であること、学校内で実施していることで好評を得ている。

また、英検合格講座（70分×12回）を年3回試験に合わせて開講した。

昨今、他校では同様の校内予備校の運営が難しくなっているようである。理由として、外部委託のための費用が嵩むこと・講師と本務教員との間に軋轢を生む事があると聞いているが、本校では進路指導部の監督の下、比較的順調に推移しているようである。講座費用は生徒負担で運営されている。

【勉学旅行・修学旅行】

11月に、パワーコースでは、米国・ニューヨーク・ボストン方面に7泊9日の日程で勉学旅行を参加者30名にて実施した。また、同月、プレップ・英数コースも豪州・ブリスベン・モートン島方面に6泊7日の日程で修学旅行を参加者593名にて実施した。

【語学研修等】

ますます、重要となる英語教育の充実に向けて、以下の語学研修等を実施し、英語に触れる機会を増やした。

- 8月 カナダ語学研修参加者 14名
- 8月 フィリピン・セブ島語学研修参加者 7名
- 7月 サマーイングリッシュプログラム（校舎移転のため中止）
- 9月～ オンライン英会話参加者 86名
- 3月 オーストラリア語学研修（新型コロナウイルス感染症対応のため中止）
- 3月 グローバルコミュニケーション京都（同上）

【入試関連】

4回の入試説明会及び文化祭の際に行った個別相談会・学校見学会の参加者総数は、
生徒 2796名（昨年度比+246名 一昨年度比+460名）
保護者 2697名（昨年度比+334名 一昨年度比+748名）
合計 5493名（昨年度比+580名 一昨年度比+1208名）

となり、例年を大きく上回る参加者を数えた。今後も他校の例を参考にしながら、生徒・保護者にさらにアピールできる内容になるよう検討していく。今般の新型コロナウイルス感染症に対する状況の中で、インターネット上でのオンラインによる入試説明会の実施については、喫緊に検討すべき課題となっている。

入学考査出願に際し、WEBによる出願方法を導入して2年目を迎えた。中学校・受験生・保護者をWEB出願に適切に誘導できたため、受験生の96%が利用した。そのため、関係業務が大幅に減った。

3. 上宮太子高等学校

i 執行部関係

校 長	寺澤 久弥	生徒指導部長	米田 文昭
教 頭	渕 昭嘉	進路指導部長	漁野 篤史
教務部長	田中 良和	入試対策部長	宮本 卓弥

ii 広報関係

① 学校説明会等行事

	実施日	参加組数	増減
オープンキャンパス	9月 7日(土)	175組	+17組
第1回入試説明会	10月 6日(月)	70組	-12組
UTフェスタ	10月26日(土)	116組	+11組
第2回入試説明会	11月17日(日)	167組	-3組
第3回入試説明会	12月 8日(日)	155組	-23組
直前対策入試説明会	12月15日(日)	203組	-27組
合計		886組	-30組

○総評

- ・説明会の内容においては、各教科からの説明も創意工夫がなされて充実したものといえる。学校見学では、在校生の協力を得て、「上宮太子生による学校見学ツアー」を実施した。受験生や保護者の反応がととてもよく、説明会等の継続率が上がった。また、個別相談コーナーでは、上宮太子専願を希望する受験生が例年になく多かった。説明会に参加して受験を決断したとの声も多数あった。
- ・オープンキャンパスの参加者組数が増加した。午前と午後に同じ内容を設定した。都合に合わせて参加することが可能となったので増加したと思われる。
- ・生徒会主催のUTフェスタというイベントを昨年度から実施している。市場に認知されつつある行事ということもあり、参加組数は増加した。軽音楽部のライブやダンス部のパフォーマンス、生徒による学校説明等、内容もよかった。今後も生徒を前面に出した形での実施を心掛けたい。
- ・参加組数合計は昨年よりも減少したが、昨今の生徒人口減少に鑑みると、この程度で歩留まりしたのはよかったと思える。

○今後について

- ・ イベントの回数や実施時期については概ね継承していく方向である。
- ・ 内容については、年々充実したものになっているが更なる工夫を凝らしたい。
- ・ 様々なイベント案内をICTツール（Web、アプリ）の活用により、参加組数を増やしていくべく工夫する。

② 塾対象説明会・中学校対象説明会

	実施日	参加塾数	増減
塾対象説明会	7月2日(火)・3日(水)	110塾	-24塾
中学校対象説明会	8月27日(火)	20校	-

○総評

- ・ 今年度より中学校の先生方を対象の説明会を実施した。2学期を間近に控えた多忙な時期での開催であったが、近隣を中心に多数参加いただいた。
- ・ 塾対象説明会では、上宮太子を御最肩にしてくださる塾の参加が多くなる為、参加者の雰囲気は良いものであった。説明会の内容としても本校の売りである生徒の様子を紹介しやすいので、その分でも好評であった。
- ・ 参加者された先生方に対してアンケートを実施し、説明会の内容や学校に対するご意見を多数頂戴した。満足度は高く、今後も上宮太子を勧めたいとの意見が多かった。

○今後について

- ・ 参加された先生方からの意見として「生徒や学校の様子を見たい」との声が多いので、生徒をうまく登場させる内容を今後も盛り込んでいきたい。
- ・ 実施時期については、学園の状況や受験市場の情勢を鑑み、臨機に対応していく。
- ・ 3年に1度の割合で参加塾の裾野を広げるためにホテルやホールにて実施している。参加塾数を考えるとホテルやホールでの実施が望ましい。今後も状況に応じて実施場所を検討していきたい。

③ 私学展

	実施日	参加塾数	増減
私学展	8月18日(土)・19日(日)	184組	+5組

○総評

- ・2年連続での増加となり、よい結果となった。
- ・私学展はブースの見た目がかなり集客に影響するが、映像モニターを使った統一感のあるブースを作ったこともあり、ブースに座らなくとも受験生の目には上宮太子が印象に残ったのではないと思われる。また、他校からの視察もあった。

○今後について

- ・より目に留まりやすいブースを作ることが大切であるので、次年度はICTツールをさらに活用したいと考えている。
- ・資料コーナーを訪れる受験生が多いので、資料コーナーからブースに導く方法を検討する。

iii 進路関係

【大学合格者数】

卒業生数が20名程増加したことに伴い、全体の合格者数は60名程増加した。
今年度のべ411名(卒業生数208名)、昨年度のべ354名(卒業生数180名)

○国公立大学

昨年度入試と比較して、現役生と過年度生を合わせた合格者数は増加した。

国公立大学合格者数：今年度21名(現役18名・過年度3名)

昨年度19名(現役18名・過年度1名)

当初目標は現役24名以上であった。目標には届かなかったが、特進コースの人数の過半数は超えており、おおむね満足できる結果であったと言える。

○私立大学(関西8私大)

昨年度入試と比較して、関関同立の合格者数は15名減少し、産近甲龍の合格者数は10名増加した。その結果、関西8私大合わせた合格者数は5名減少した。

従来から言われている安全志向の生徒・保護者が目立ち、公募推薦、一般入試に挑戦する生徒は多くはなかった。総受験数も減少した。

関西 8 私大合格者数

今年度 100 名（関西 9 名・関西学院 2 名・立命館 1 名・京産 6 名・近畿 64 名・龍谷 18 名）

昨年度 105 名（関西 16 名・関西学院 1 名・同志社 7 名・立命館 3 名・

京産 4 名・近畿 38 名・甲南 7 名・龍谷 29 名）

○30 期生の進学状況（卒業者数 208 名）

4 年制（6 年制）大学進学者数…163 名 短期大学・短期大学部進学者数…12 名

専門学校進学者数…20 名 就職等…5 名 進路未決定…8 名

（内訳：総合進学文系 7 名、特進文系 1 名）

現役合格率 96.5%（昨年度 93.3%）、現役進学率 96.0%（昨年度 92.2%）

連携・指定校推薦入試枠 624 名分のうち、受験者数 50 名（総合進学コース在籍者の 29.0%）

※昨年度と比較して、連携・指定校推薦入試利用者（受験者）数は倍増。

昨年度は関関同立・産近甲龍を含めた連携・指定校推薦入試枠 649 名分中、

利用者（受験者）数は 24 名（総合進学コース在籍者の 15.8%）

総合進学コース在籍生徒のうち、

1 名（実数）が関西学院大学に一般入試で合格。

2 名（実数）が京都産業大学に一般入試で合格。

4 名（実数）が近畿大学に公募制推薦・一般入試で合格。

3 名（実数）が龍谷大学に公募制推薦・一般入試で合格。

（昨年度実績）総合進学コース在籍生徒のうち、

2 名（実数）が関西大学に一般入試で合格。

2 名（実数）が京都産業大学に一般入試で合格。

6 名（実数）が近畿大学に公募制推薦・一般入試で合格。

1 名（実数）が甲南大学に公募制推薦入試で合格

5 名（実数）が龍谷大学に公募制推薦・一般入試で合格。

【進路指導方針】

入学当初より、進路指導 LHR や総合的な探究の時間を通して、大学・学部・学科について調べ、できるだけ早い時期に目標設定を行うように指導している。総合進学コースや特進Ⅱ類の生徒にも、大学入学共通テストの受験、公募制推薦入試や一般入試を中心に大学進学をめざすように指導している。生徒の将来とともに、上宮太子高等学校の将来を見据えた取り組みを、今後も継続していきたい。

○次年度の取り組む内容（重点目標）

- ・安易な考えによる総合型選抜・指定校推薦入試からの脱却（総合進学の2割未満）
- ・家庭学習の推進
- ・模試の事前・事後指導
- ・Classi を活用したメタ認知力の育成
- ・Find! アクティブラーナーを活用した授業改善

■上宮太子高等学校 令和2年度入試 大学合格者数一覧(卒業生数208名)

【3月31日現在】

国公立大学						
大学名	現役		過年度		合計	
	のべ	実数	のべ	実数	のべ	実数
国立大学						
北見工業大	1	1	0	0	1	1
静岡大	2	2	0	0	2	2
金沢大	0	0	1	1	1	1
大阪教育大	2	2	0	0	2	2
兵庫教育大	1	1	0	0	1	1
和歌山大	1	1	0	0	1	1
鳥取大	2	2	1	1	3	3
山口大	1	1	0	0	1	1
徳島大	1	1	0	0	1	1
愛媛大	1	1	0	0	1	1
国立大計	12	12	2	2	14	14
公立大学						
大阪市立大	1	1	0	0	1	1
富山県立大	1	1	0	0	1	1
奈良県立大	1	1	1	1	2	2
島根県立大	1	1	0	0	1	1
下関市立大	1	1	0	0	1	1
宮崎公立大	1	1	0	0	1	1
公立大計	6	6	1	1	7	7
国公立大計	18	18	3	3	21	21

私立大学						
大学名	現役		過年度		合計	
	のべ	実数	のべ	実数	のべ	実数
関関同立						
関西大	6	6	3	1	9	7
関西学院大	2	2	0	0	2	2
同志社大	0	0	0	0	0	0
立命館大	1	1	0	0	1	1
関関同立計	9	9	3	1	12	10
産近甲龍						
京都産業大	6	4	0	0	6	4
近畿大	51	23	13	3	64	26
甲南大	0	0	0	0	0	0
龍谷大	15	10	3	1	18	11
産近甲龍計	72	37	16	4	88	41

私立短期大学						
短期大学名	現役		過年度		合計	
	のべ	実数	のべ	実数	のべ	実数
白鳳短期大	2	2	0	0	2	2
大阪信愛学院短	1	1	0	0	1	1
堺女子短	1	1	0	0	1	1
関西女子短	3	3	0	0	3	3
短期大学計	7	7	0	0	7	7

専門学校等						
専門学校等名	現役		過年度		合計	
	のべ	実数	のべ	実数	のべ	実数
大阪赤十字看護専	1	1	0	0	1	1
大阪警察看護専	1	1	0	0	1	1
その他専門学校等	19	19	1	1	20	20
専門学校等計	21	21	1	1	22	22

私立大学						
大学名	現役		過年度		合計	
	のべ	実数	のべ	実数	のべ	実数
その他の私立大学						
京都女子大	1	1	0	0	1	1
神戸女学院大	1	1	0	0	1	1
同志社女子大	1	1	0	0	1	1
神戸薬科大	0	0	1	1	1	1
関西外国語大	10	9	0	0	10	9
京都外国語大	1	1	0	0	1	1
大阪工業大	23	10	2	1	25	11
大阪経済大	5	3	0	0	5	3
佛教大	1	1	2	1	3	2
畿央大	2	2	0	0	2	2
摂南大	35	14	2	1	37	15
神戸学院大	3	2	2	1	5	3
追手門学院大	14	10	0	0	14	10
桃山学院大	7	5	2	1	9	6
桃山学院教育大	8	2	0	0	8	2
大和大	1	1	0	0	1	1
神戸女子大	3	2	0	0	3	2
大阪女学院大	1	1	0	0	1	1
甲南女子大	11	4	0	0	11	4
大阪樟蔭女子大	1	1	0	0	1	1
梅花女子大	1	1	0	0	1	1
京都光華女子大	1	1	0	0	1	1
森ノ宮医療大	2	2	1	1	3	3
関西医療大	3	3	0	0	3	3
大阪府岡医療大	1	1	0	0	1	1
藍野大	6	5	0	0	6	5
大阪保健医療大	2	1	0	0	2	1
大阪芸術大	4	4	0	0	4	4
京都造形芸術大	2	1	0	0	2	1
大阪音楽大	1	1	0	0	1	1
京都美術工芸大	1	1	0	0	1	1
天理大	2	2	2	1	4	3
奈良大	7	4	0	0	7	4
帝塚山大	13	6	12	2	25	8
奈良学園大	2	2	0	0	2	2
酪農学園大	5	4	0	0	5	4
日本大	1	1	0	0	1	1
名古屋産大	1	1	0	0	1	1
大谷大	1	1	0	0	1	1
ノートルダム大	0	0	1	1	1	1
大阪国際大	1	1	0	0	1	1
大阪産業大	60	23	2	1	62	24
大阪商大	4	4	3	2	7	6
大阪電気通信大	4	4	0	0	4	4
大阪大谷大	4	4	0	0	4	4
四天王寺大	5	5	0	0	5	5
帝塚山学院大	2	1	0	0	2	1
阪南大	16	4	0	0	16	4
関西国際大	1	1	0	0	1	1
関西福祉科学大	6	5	0	0	6	5
相愛大	2	1	0	0	2	1
太成学院大	2	2	0	0	2	2
大阪人間科学大	1	1	0	0	1	1
千葉科学大	1	1	0	0	1	1
岡山理科大	4	1	0	0	4	1
長浜バイオ大	2	1	0	0	2	1
神戸医療福祉大	2	1	0	0	2	1
新潟食料農業大	3	2	0	0	3	2
その他の私立大学計	305	175	32	14	337	189
私立大学計	393	228	51	19	444	247

iv 入試関係

	コース	募集人員	専・併	志願者数		合格者数		手続者数		
				男子	女子	男子	女子	男子	女子	
1次	特進Ⅰ類	約60	専願	男子 21 女子 14	35名	男子 14 女子 8	22名	男子 14 女子 8	22名	
			併願	男子 82 女子 96	178名	男子 36 女子 41	77名	男子 5 女子 3	8名	
	特進Ⅱ類		専願	男子 30 女子 25	55名	男子 32(6) 女子 23(5)	55名 廻し11名含む	男子 32(6) 女子 23(5)	55名 廻し11名含む	
			併願	男子 37 女子 44	81名	男子 62(36) 女子 74(38)	136名 廻し74名含む	男子 7(2) 女子 6(3)	13名 廻し5名含む	
	総合進学		約105	専願	男子 31 女子 18	49名	男子 35(4) 女子 26(8)	61名 廻し12名含む	男子 35(4) 女子 26(8)	61名 廻し12名含む
				併願	男子 36 女子 32	68名	男子 50(15) 女子 53(23)	103名 廻し38名含む	男子 4(2) 女子 2(1)	6名 廻し3名含む
1・5次	若干名	専願		男子0 女子0	0名	—	—	—	—	
		専願		男子1 女子0	1名	男子1 女子0	1名	男子1 女子0	1名	
		専願		男子0 女子0	0名	—	—	—	—	
専願合計				140名				139名		
併願合計				327名				27名		
合計				467名				166名		

○総評

- ・1次入試における専願者が大幅に増加した（29名増、26%増）。昨今の大学入試定員厳格化や大学入試改革へ不安の中で、上宮太子の進学実績の向上に裏付けされた「指導力の高さ」が増加につながっている。また、女子比率も向上し、入学者の男女比率も6：4となった。

- ・今年度より3コースでの募集を行った。学力と将来の目的に合わせた幅広いコースを展開したことは受験生や中学校・塾への反応がよかった。入試成績をみると、受験生の平均点が上昇しており、従来よりも高い学力を持った受験生多くなったことがわかる。各コースの入試結果を見ても、各コースともに受験生の平均点が上昇していた。特に特進Ⅰ類の上位生徒の学力が高くなった。特進Ⅱ類においても、予定では1クラスを想定していたが、学力の高い受験生が多く、結果的には2クラスの入学者を得ることができた。
- ・志願者は若干減少したが、昨今の生徒人口減少（特に、南河内地区、中河内地区、奈良県南部という上宮太子の通学エリア）に鑑みても入学者数がほぼ変わらなかったことはよかった。しかも、従来に比べて学力層の高い受験生が多くなったことも特筆に値する。進学実績の向上や世間での認知度が上がってきたことが理由である。

○今後について

- ・ここ数年、受験生のレベルが上がってきたのは良い傾向である。今年度から3コースにし、よりきめの細かい指導ができる環境も整いつつある。今後も人数確保も視野に入れながらも、さらに合否ラインを上げて学校のレベルアップにつなげる方針である。
- ・公立中学校や塾に対しては今後も丁寧かつ積極的にアプローチをし、信頼関係を構築していく。渉外活動を展開していく。
- ・受験生や保護者に対しては、今後一層ICTツールを活用しながら効果的に学校の魅力を伝えていく。
- ・上宮太子高校の進学実績は年々向上し、学校行事やクラブ活動における生活面でも主体的に活動し、生徒は生き生きとした学校生活を送っている。在校生や保護者の満足度は高い。今後、今ある良さは維持しながら、さらなる学校の魅力を創出し、効果的に伝えていく工夫を行う。また、市場の動向をにらみながら、柔軟かつ積極的に広報活動を展開していく方針である。

v 施設等整備関係

- ・アトリウム（中庭）のステージ塗装美装工事（卒業生からの記念品として）

iv 教務関係

① 学校評価

各部署の実施計画と授業アンケートを中心に学校評価を行った。各部署については、4月末までに今年度の年間計画と取り組む内容を、10月末までに中間評価、3月末までに年度末評価を学校評価委員会に提出し、その都度校長より指導助言をいただく形で実施した。

授業アンケートについては、11月に実施し、その結果を各教員がリフレクションペーパーにまとめ、その後の授業に反映させるように行った。また今年度は同時期に保護者アンケートも行った。

前年度の総括の学校関係者評価委員会は7月に実施した。

② 高大連携

○現状について

関西大学、近畿大学、龍谷大学、帝塚山学院大学、大阪樟蔭女子大学の5大学と高大連携協定を締結しており、それぞれの大学から特別推薦入試枠をいただいている。また、近畿大学経済学部にて、数学のリメディアル教育担当教員を1名派遣している。

○今後について

いくつかの大学から高大連携協定に関する話を頂戴している。しかし、生徒の希望進路等を確認しつつ本校としても長期間に渡り、責任ある関係を保つことができる大学に絞って今後の高大連携を考えていく。

③ 教職員研修会

昨今の私学を取り巻く厳しい環境のなかで、私立学校として、学校祖・法然上人の仏教精神に基づく『建学の精神』を掲げるのが上宮太子中学校・高等学校である。

そこで日々働く私たち教職員が、「意識の改革レベルの向上」・「私学人としての現状認識と共通理解の醸成」・「他校の情報収集と対策の研究」等を目的に、機会を求めて共に研鑽を積むことを重ねている。

教職員一人ひとりが、そして、教職員総体として、「生徒・保護者のため」・「所属する職場組織のため」何が出来るか、どのように貢献できるかという視点で、基本的には各学期1回、全教職員を対象に教職員研修会を実施した。(なお第3回については新型コロナウイルス感染拡大のため中止) 教職員の当事者意識の確立、研究心の錬磨、技量・モチベーション向上に繋げている。

<第1回 7月8日(月)>

- ・テーマ「深い学びをうながすアクティブラーニングのデザイン」

講師 関西大学 教育推進部教授 森 朋子氏

<第2回 12月11日(水)>

- ・テーマ「グローバル教育の今後」

講師 株式会社 I S A 教育サービス統括本部 取締役本部長 平田敏之氏

④特筆すべき行事

・【海外語学研修】

〈イギリス語学研修（ACEプログラム）〉7月20日(土)～8月5日(月) 対象:中3～高3 希望制

資格あり、国際感覚の習得、プレゼンテーション

スキル・チームワークやリーダーシップスキルの育成の向上を目的としたパブリックスクールでの寮滞在型の研修。参加資格は英検2級1次試験合格以上。基準にクリアした生徒は、学園から一部奨励金を受け、学園・学校の代表としての誇りをもって、研修に参加する。参加者には10時間以上のネイティブ講習会等を実施する。(令和元年度 参加者3名)

〈カナダ語学研修〉7月28日(日)～8月12日(月) 対象:高校生 希望制

本校にとって今年度、新規の語学研修として導入したものである。自然豊かな風土と治安の良さ、また教育水準の高さから注目が高いカナダは、英語だけでなくフランス語も公用語として使用されているため、欧米の2つの雰囲気の中で異文化を体験できる語学研修であった。(令和元年度 参加者5名)

〈ニュージーランド ターム留学〉7月20日(土)～9月22日(日) 高校生 希望制

9週間の海外滞在を通して、親元を離れ、現地校での授業はもちろん、世界をより深く知る機会になると同時に、日本や自分自身のことについても改めて考えることが出来る素晴らしい機会となることを目的としている。(令和元年度 参加者2名)

〈ニュージーランド語学研修〉3月22日(日)～4月4日(土) 高1・2生 希望生

新型コロナウイルスの影響で今年度は中止

・【校内語学研修】

〈イングリッシュワークショップ〉

例年、3月の特別授業期間を利用して、外部講師を招き、高1・2年生の学年で全員を対象に英会話講習会を実施している。少人数のグループにネイティブの講師が1名着付く。4コマ(1コマ45分)を講師がローテーションすることにより、各コマの雰囲気が変わり充実した講習会となっていた。但し、今年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、臨時休業期間のため中止となった。

・【交換留学生の受け入れ】

2学期よりインドネシアからの交換留学生1名を受け入れた。総合進学コース2年理系クラスに所属し、共に授業を受け、学校行事やクラブ活動に参加した。この受け入れ事業を通じて、本校生徒にとっても異文化理解の契機となった。当初、留学期間は1年間の予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により留学事業が途中で中止となり、3月にインドネシアへ緊急帰国となった。

また11月にはインドネシアの修学旅行生の訪問を半日受け入れた。音楽交流や日本の伝統的な遊びに触れる体験を通して、双方の生徒にとって貴重な交流の場となった。

・【修学旅行】

高校2年生が第1隊：12月15日(日)～20日(金)、第2隊：12月16日(月)～21日(土)の行程でオーストラリア・ケアンズにてファームステイでの国際交流を中心とした修学旅行を実施した。ただ第2隊においては、搭乗予定の航空機の機材トラブルにより出発が1日遅れ、行程を1日短縮となったが、全員無事に帰国することができた。

また中学3生は9月26日(木)～30日(月)まで異文化交流の歴史を持つ五島列島の小値賀島での民泊体験を実施した。中高共に現地の方々との交流やホンモノに触れる体験を通じて、思い出深い修学旅行となった。

・【聖徳書道展】

令和元年度で第12回の実施となる上宮太子主催の文化活動である。伝統文化と、聖徳太子ゆかりの地にある学校として、“以和為貴”の精神を理解・継承し、「和」の心を広め、育成することを目的として開催している。例年、総本山知恩院、太子町、太子町教育委員会、毎日新聞社の後援をいただいて、令和元年度は約5,000点の応募作品を得た。当初は10月12日(土)～13日(日)の2日間の実施予定であったが、台風接近の影響により10月22日(火・祝)に延期の上、1日型で展示、表彰式、書のパフォーマンスを行なった。

vii 課外活動関係

①課外活動のあり方について

運動部：13、文化部：11、同好会：1（令和2年3月現在）

中高で約8割の生徒がクラブに所属(79.3%)し、それぞれのクラブの特色に応じて活動している。各クラブにおいて目標を達成する上の過程を大切にし、礼儀や挨拶等を含めた人間教育に重点を置いた指導をめざし、学校全体の活性化もねらいとしている。

②新規クラブ発足等の動きについて

令和元年 7月 ボランティア部 新規発足

令和2年 3月末をもって、囲碁将棋部は廃部、男子硬式テニス部・女子硬式テニス部は「硬式テニス部」に統合する。

③部活動の主な成績

軽音楽部

第12回全国高等学校軽音フェスティバル カヴァー部門 最優秀賞

書道部

第54回 高野山競書大会

金剛峯寺賞 平川 香恋 (高3)

高野山管長賞 平川 汐南 (高2)

第58回 伊勢神宮奉納書道展

令和大賞 平川 香恋 (高3)、三嶋 柚心 (中3)

第28回 国際高校生選抜書展 (書の甲子園)

入選 平川 香恋 (高3)、平川 汐南 (高2)、三嶋 美月 (高1)

栗栖 歌音 (高1)

総合探究部

小倉百人一首競技かるた第41回全国高等学校選手権大会 (個人戦の部)

皆見 唯菜 (高3)、岡本 和真 (高1)、中島 太陽 (高1)

陸上競技部

大阪高校地区別秋季大会 (3,4地区)

男子円盤投 辻 善樹 (高2) 4位

<第19回阪奈和高等学校選手権大会への出場が決定>

第74回大阪高等学校総合体育大会陸上競技の部

男子200m 西端 将司 (高2) 本選出場

第66回大阪中学校高等学校私学総体陸上競技の部

男子砲丸投 火置 雅弥 (中3) 優勝

第73回大阪中学校総合体育大会陸上競技の部

女子100m 的場 千明 (中3) 本選出場

ラグビー部

第71回近畿高等学校ラグビーフットボール大会大阪府予選 Aブロック 4位

硬式野球部

令和2年度 春季近畿地区高等学校野球大会大阪府予選 ベスト8

サッカー部

高円宮杯JFA U-18サッカーリーグOSAKA2019

4部 中河内・南河内ブロック Aグループ 優勝<来季3部リーグへの昇格が決定>

美術部

第68回 大阪私学美術展 立体部門 優秀賞 西原 雅人 (高2)

テーマ部門 優秀賞 川越 良樹 (高2)

バドミントン部

第74回 大阪高等学校総合体育大会 バドミントン競技の部
男子シングルス II部 池田 佳弥(高1) ベスト32

バレーボール部

大阪府地区選抜南地区代表(大阪府優秀選手表彰) 緒方 睦介(高3)

吹奏楽部

第56回大阪府吹奏楽コンクール 南地区大会 高等学校 小編成の部 銅賞

viii 防災対策関係

大規模災害が発生した場合は、帰宅困難者によるさらなる混乱を防ぐため、生徒をすぐには帰宅させず、学校内で待機させるという考え方が主流になっている。そのため、学校側は、生徒が最低2日間、学校内で寝泊まりできる備えが必要となる。

また、学校の復旧だけでなく、地域の帰宅困難者支援、一時滞在者の受け入れ、避難所への物資の提供等、学校にできる被災者支援を行うことが、本校の信用を高め、地域貢献に繋がる。

(備蓄品内容 一人分)

朝食パン2日分 昼・夜 アルファ米2日分 飲料水500ml6本
ミルクビスケット・クラッカー 保存用水20900本 レスキューシート
(救助・救命KIT) 普通教室棟 1セット 特別教室棟 1セット

ix その他

- ①生徒会活動の一環として、上宮祭における献血活動に力を入れている。日本赤十字社より講師を招き、全生徒に対して献血に関する事前学習を行い、上宮祭当日までの呼びかけや、研究発表を通してたくさんの生徒、来校者に協力していただいている。
- ②生徒の主体的活動の一環として、ボランティアへの積極的参加の呼びかけを行っている。大阪府青少年赤十字主催のボランティア活動やリーダーシップ・スタディー・センター(防災キャンプ)等にも参加した。今年度は「ボランティア部」が発足し、年末たすけあい運動募金の活動を生徒会と共同で実施、太子ロータリークラブと連携し、来年度の「インターアクトクラブ」の発足を目指し、調整を重ねている。
- ③今年度より、生徒を主体とした委員会活動の推進を行っている。主な活動実績として、保健委員会が上宮祭において、「がん」をテーマに研究発表・啓発活動を行った。また、風紀委員会では「あいさつ運動」を毎朝したほか、毎日の昼食休憩時には、整美委員会が校内の清掃活動を、放送委員会が放送番組の制作を行った。新聞委員会は学校新聞である「上宮太子ニュース」の原稿執筆を行うなど、積極的な委員会活動がみられる。

4. 上宮学園中学校

i 学校統合後の状況

平成 31 年度は、上宮中学校と上宮太子中学校の統合による上宮学園中学校発足 2 年目である。平成 29 年度にまとめられた「上宮学園中学校」の学校概要を一部改良しながら、学校内外の教育活動を予定通り実施した。130 周年事業に向けた新校舎建設と学習環境の整備を広報し、入試関係行事にも工夫を凝らした。

ii 広報関係

① 塾本部への説明

「上宮学園中学校」発足の広報と、新しい入試形態の説明のため、副校長と入試対策部長とで各塾の本部を訪問した。

② 校内における授業見学、入試説明会、プレテスト

○授業見学会 2 回 179 組（前年比-60 組 前年は 3 回実施）

○説明会 3 回 317 組（前年比+59 組）

○プレテスト 2 回 学力型 381 名 適性型 264 名（前年比学力型+6 名 適性型+71 名）

○総動員数 1141 組（前年比+77 組）

③ 大阪私立中学校フェア

4 月 21 日（日）大阪私立中学校高等学校連合会主催の大阪私立中学校フェア（大阪国際会議場）に参加し、83 組の児童・保護者と対応した。（H30 年度は 60 組）

④ 塾対象説明会

9 月 19 日（木）シェラトン都ホテルで実施。292 塾 331 名参加（前年比-18 塾-13 名）

⑤ 私学展

高校と内容は同じ

iii 入試関係

令和 2 年度上宮学園中学校入試は、初日 1 月 18 日午前一般学力型入試 A、適性検査型および自己アピール型入試を行い、その午後一般学力型入試 B を実施した。そして、2 日目 1 月 19 日の午前一般学力型二次入試を実施した。

① 1 次入試の結果

- ・一般学力型入試 A 志願者 101 名 受験者 98 名 合格者 91 名 入学者 86 名 辞退者 1 名
（前年比志願者 109 名 受験者 109 名 合格者 97 名 入学者 86 名 辞退者 0 名）
- ・適性検査型入試志願者 13 名 受験者 13 名 合格者 12 名 入学者 3 名 辞退者 0 名
（前年比志願者 16 名 受験者 16 名 合格者 15 名 入学者 0 名 辞退者 0 名）
- ・自己アピール型入試志願者 1 名 受験者 1 名 合格者 1 名 入学者 1 名 辞退者 0 名
（前年比志願者 0 名 受験者 0 名 合格者 0 名 入学者 0 名 辞退者 0 名）
- ・一般学力型入試 B 志願者 100 名 受験者 97 名 合格者 73 名 入学者 13 名 辞退者 1 名

(前年実施せず)

② 2次入試の結果

・一般学力型入試志願者 109名 受験者 95名 合格者 66名 入学者 9名 辞退者 1名

(前年比志願者 122名 受験者 112名 合格者 92名 入学者 15名 辞退者 3名)

③ まとめ

令和2年度は昨年度よりも多い112名の入学生を迎え、さらに女子生徒は目標の30名を超える32名の入学者を得た。女子比率は29%と増加したが、来年度は30%を超えることを目標にしたい。二次入試日程の調整および適性型入試と自己アピール型入試の改良が、今後の重要なポイントとなる。

iv 教務関係

(1) 学校評価の総括から ()内は自己評価

- ① 日々の行事運営 (B)
- ② 教務係との業務の連携、運営 (B)
- ③ 教員間の情報の共有・連携 (B)
- ④ 中高教務の連携 (C)
- ⑤ 会議や連絡会について (B)
- ⑥ 教務会の円滑な進行について (A)
- ⑦ 上宮学園中学校開設についての取り組み (B)
- ⑧ 六カ年を見据えた教育の充実 (C)
- ⑨ 校外学習及び総合学習の充実と積極的な取り組み (B)
- ⑩ 上宮学園中学入試の実施と諸問題の検討 (A)
- ⑪ 保護者会との協力 (B)
- ⑫ 部活動の充実に繋がる取り組み (B)

(総括)

平成30年度の中学行事には、太子における合同校外学習や、合同スキー実習などがあり、何とか無事に終えることができた。今後は上宮太子中学校・高等学校との打ち合わせを行いながら、生徒の進学面でのサポートについても検討する必要がある。

(2) 勉強合宿

- ① 例年、中1は5月に勉強合宿(1泊2日)を行っていたが、平成30年度は、4月初めの祖山参拝に合わせ、司馬遼太郎記念館訪問も含めて2泊3日のオリエンテーション合宿を実施した。
- ② 中1、中2の特進コースが行う夏期勉強合宿(2泊3日)は9年目となった。自学自習が早くから定着することと、将来の進学に自覚を持たせる目的がある。
- ③ 中3勉強合宿(2泊3日)は、2月に実施した。上宮高校入試問題も合宿3日目に実施したが、あまりよい結果を出せなかった。その動機付けをどのようにするのが今後の課題である。

(3) 中3修学旅行

平成30年度より、実施方面をシンガポールに変え、ホームステイおよび現地の若者との交流を主とするプログラムを実施した。また、マレーシアにも足を延ばして異文化交流を行った。事後のアンケートでは概ね好評であり、今後も継続予定である。

(4) スキー実習

中1、中2の全員が例年通り、志賀高原スキー場にて3泊4日で実施したが、平成30年度は上宮太子中学校2年生と合同で行う初めての試みとなった。途中から離団する生徒もおらず、無事に終わることができた。例年通り雪質もよく、宿舎でインストラクターの話を聞けるなど、事後のアンケート結果においても生徒の満足度は高かった。

(5) 中3生対象のオーストラリア語学研修

3月末から4月初旬にかけての12日間。ケアンズにおけるホームステイを中心に、午前中は

語学学校、午後はアクティビティからなる研修で、参加者からは好評を得ている。

(6) 中学1年生の太子での合同校外学習。

学園初めての取り組みであった。本校1年生と上宮太子中学校2年生とで太子町の史跡見学を

行った。天候に恵まれ、両校生徒にとって有意義な体験となった。

(8) 上記以外の行事

① 中1：5月に冒険教育（神戸鈴蘭台スカイアドベンチャー、日帰り）を実施

② 中2：8月に和歌山県日置川町における民泊（2泊3日）を実施

12月に思春期教室（バルナバ病院で実施）

③ 各学年主導の校外学習

1年：司馬遼太郎記念館、近大英語村

2年：上町台地において班別自主研修、近大英語村

3年：修学旅行事前学習として、ECC英語学院でグローバル体験を行う。

v 課外活動関係

◎剣道部

近畿大会 個人 1回戦

◎ソフトテニス部

全国大会 団体 準優勝体ベスト8 個人 第3位

近畿インドア大会 団体 ベスト8位 個人 ベスト16位

◎卓球部

近畿大会（8月） 個人 ベスト8

全国大会 個人 出場

全日本カデット 個人 出場

近畿大会（3月 真嶋杯） 団体優勝

◎水泳部

ジュニアオリンピック 個人出場 田積帆乃果

ジュニアパンパシフィック 日本代表として出場 田積帆乃果

5. 上宮太子中学校

i 教務関係

① 学校評価

上宮太子高等学校と同内容

② ガンバリシステムの導入

- ・学力のみならず、自立した「生きる力」を持った生徒の育成
- ・達成によって得られる自己肯定感の育成
- ・生徒一人ひとりの良さや可能性を伸長
- ・生徒一人ひとりの学習意欲の向上
- ・一人ひとりの生徒が自らの良さに気づき、自主的に学ぼうとする態度を身につける。

【ガンバリシステムの評価項目】

大項目	学 業		自己啓発		生活状況			資格		課外活動			
	模擬試験	ガンバリスト	図書館利用状況	自己啓発	勤惰状況	生活態度	家事・自立	漢字検定	英語検定	生徒会活動	クラブ活動	ボランティア	コンクール
小項目													

③ 教職員研修会

上宮太子高等学校と同内容

④ 特筆すべき行事

海外語学研修・聖徳書道展については上宮太子高等学校と同内容

○その他

早朝テスト 朝礼時に実施することにより、授業への姿勢を整えさせ、学習習慣の定着を図る。

外部模試 全国的なレベルでの成績の比較。

特別考査 日頃の学習の成果を見極め、校内での実力を確認する。

漢字検定試験 中学卒業までに2級合格が目標。

英語検定試験 中学卒業までに3級合格が目標。

英検講習 学年枠を越えた級別講習を、通常の補習・講習に加えて、検定日前に集中実施。

授業内小テスト・個別指導・添削指導等、教科の特性を加味した指導を実施。
職員室前に質問コーナーを設け、生徒がいつでも質問しやすい環境づくりを設定。

学校行事

普段の教室での“知性を磨く”学習とは違った形で学び、違った環境の中で「感激・感動」を味わって、“感性を磨く”学習としての学校行事。普段、「吸収」した知識を、いかにうまく「発揮」していくかに繋げたい。“交流”“体験”“手づくり”を重視した修学旅行・文化祭（本校では上宮祭）・体育大会の他、独自の行事も実施。

御忌式	校祖法然上人のご命日に当たる毎月 25 日の第 1 限に学園長より法話。
校祖誕生会	校祖法然上人のお誕生の日に式典と講話。
正当御忌式	校祖法然上人の祥月命日に式典と講話。
修学旅行	(九州方面) 長崎県五島列島の小値賀島での民泊体験他。
球技大会	生徒会起案で実施、生徒の自主性を養う。
体育大会	4 学年縦割りの色別対抗で実施。学年枠を越えて先輩・後輩の関係性の確立を図る。
上宮祭	研究発表等、多彩なクラス参加、または、文化部の催し物を実施。
芸術鑑賞	音楽、古典芸能、ミュージカル等「ホンモノ」の芸術に触れ、感性を磨くことを目的とする。平成 31・令和 1 年度は、劇団四季のミュージカル「リトルマーメイド」を鑑賞。
校外学習	同志社大学、京都大学への見学を実施。

ii 課外活動関係

上宮太子高等学校と同内容

iii その他

浄土宗開祖法然上人の教えに基づき、1890 年（明治 23）年に開設された上宮学園の歴史と伝統の中で、新しい一つの灯を灯すべく 1985（昭和 60）年に発足。「誠の人づくり」を使命とし、進んでまいりましたが、本年を持って一旦、その使命を終える。